

施策番号	2103		
施策名	創造を続ける南部地域のまちづくり		
概要	京都の新たな活力を担う地域として、多様な主体の連携の下、さらなる企業集積を図るとともに、創造的な活動を支える快適で魅力ある都市環境を形成する。		
担当局・部室	都市計画局・まち再生・創造推進室	共管局・部室	
上位政策	21 土地利用と都市機能配置		
施策に関係する 主な分野別計画等	新・京都市南部創造まちづくり推進プラン らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		24年度	25年度	26年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	らくなん進都への企業立地件数(件)	e	d	17	15	25	60.0%	d	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		e	d	客観指標総合評価				d	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度回答						
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	京都のまちの南部地域が発展してきている。	63	181	158	51	33	486	b
		13.0%	37.2%	32.5%	10.5%	6.8%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている					
	重み付け	☒ 客観指標	d	☐ 市民の実感	b	
(重み付けの理由) 施策の性質として、市民の生活実感に施策の効果がすぐには反映されにくいものであるため、客観指標を重視する。						25年度 C
(原因分析) 【客観指標】企業の設備投資意欲は少しずつ回復傾向を見せているものの、らくなん進都については、企業を誘致するまとまった土地が少ないこと等から、企業立地件数は、目標値には届かず、d→d評価と低い評価が続いている。 【市民の実感】京都第二外環状道路の沓掛ICから大山崎JCT・IC間の開通や京都市成長産業創造センターの開所、また、新しい企業の立地等を踏まえ、市民生活実感評価は3年連続b評価で安定している。						24年度 D

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	らくなん進都をはじめとする南部地域のまちづくりの推進	24,058	31,214	良い	都市計画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

- 桂川駅周辺における商業施設等の新たな都市機能の誘導などにより、更に活気溢れるまちづくりを展開するとともに、広域交通結節点としての特性を生かした更なる企業集積の促進により、京都の新たな活力を担う創造のまちづくりを展開する。
- 先導地区として位置付けるらくなん進都においては、企業立地の促進が課題となっているが、企業立地促進助成制度や企業立地に協力する土地所有者に対する支援制度等の活用、また、油小路通沿道及び企業敷地における緑化の推進や公共交通の利便性の向上に向けた取組等を進め、更なる企業の集積を図る。

施策名	2103	創造を続ける南部地域のまちづくり					
指標名	らくなん進都への企業立地件数（件）						
担当課	まち再生・創造推進室		連絡先	2 2 2－3 5 0 3			
1 指標の説明							
らくなん進都(注) 内に立地した企業の件数 (注) 新しい京都を発信するものづくり拠点としてまちづくりを進めている地域。 油小路通を中心に概ね十条通、宇治川、東高瀬川、国道1号に囲まれた約607haの地域。							
2 指標の意味							
南部地域においてもものづくり企業の本社・研究開発・生産機能が集積していることを示す指標							
3 算出方法・出典等							
建築確認申請件数（完了検査済） 出典：事業担当課調べ							
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度	
数値	17	15	2件減	25	過去10年間で最も高い数値（平成18年度：25件）に設定	60.0%	
	全国順位	中長期目標			備考	平成25年度までは、平成12年度から平成21年度までの10年間の基準としていたが、近年の経済情勢の変化を踏まえた評価を行うため、平成26年度からは、直近の過去10年間の基準として評価を行う。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新数値が過去10年間の a：最高値以上 b：平均値超～最高値未満 c：平均値 d：平均値未満～最低値超 e：最低値以下			6 基準説明				
			当該指標は過去からの推移によって評価されるべきものであるため、直近の過去10年間（平成15年度から平成24年度）における最高値以上のものをa、平均値をcとし、最低値も含めた按分として基準を設定した。 最高値 25件（平成18年度） 平均値 17件 最低値 11件（平成17年度）				
7 評価結果							
24		25		26			
e		d		d			